



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

2月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

相手を思う気持ち

副園長 本橋 房子

さくらだこども園では、例年1月に、年長児が遊園地ごっこを行っています。年長児は、昨年自分たちが遊園地ごっこに招待してもらって楽しかったことをよく覚えています。そして今年の遊園地は、4～8名のグループに分かれて「おぼけやしき」「たべものやさん」「ピンポンだまゴール（ピンポンだまをバウンドさせて紙コップに入れる遊び）」「ジェットコースターでんしゃ」「しゃてき」「サスケ（はしごを渡ったり、台に登ったり壁を押したりするアスレチックのような遊び）」「たからさがしすごろく」「すいぞくかんめいろ」といった自分たちが考えた遊びやお店のコーナーを仲間と相談しながら作り上げました。この遊園地は自分たちが楽しみたいという思いだけでなく、昨年、自分たちが年長児にしてもらったように「今度は自分たちが小さい子たちを招待したい」「小さい子に遊園地を楽しんでほしい」という思いが込められています。ですから、作り進めているときに「これなら小さい子でもできそう」「これをあげたら喜ぶと思う」といった年下の子のことを思う言葉が多く聞かれました。

遊園地ができあがり、3、4歳児が遊園地に遊びに来ると、どのように関わったらよいか戸惑う年長児もいました。それでも、並び方が分からない子には手を繋いで案内したり、言葉の説明では伝わらないときに、動きを見せて教えようとしていたりしていました。また、相手の小さな声もちゃんと聞こうとかがんで耳を傾ける姿や、ゲームで当たりにならなかったときに「惜しい！」と声を掛ける姿などが見られました。それは、相手にどうしたら分かってもらえるか、楽しんでもらえるか、喜んでもらえるかなど、相手のことを思いながら自分なりに考え、関わろうとする姿でした。私は、その姿から年長児の心の成長を感じました。そして、年長児のこのような言動は、今まで幼児自身が保護者の方や保育者、友達といった身近な人にしてもらってうれしく感じたことや、自分が相手にしたときに相手から喜ばれたり、感謝されたり、周りから認められたりしてよさを実感してきたことが基になっていると感じました。相手を思う気持ちは、様々な人と実際に関わり、言葉を交わす中で育まれると改めて思いました。

年長児は、この遊園地ごっこで3、4歳児から「おもしろかった」「ありがとう」と言われたことや、遊んでいるときの笑顔を見て、自分たちがしたことよさを感じていました。また、年長児の作った遊園地を楽しんだ子どもたちは、きっと今度は自分も誰かのために何かしたいという気持ちをもつことでしょう。3、4歳児にとって憧れの存在である年長児と一緒に過ごせるのも後2ヵ月程。子ども同士が様々な場面で関わり、その中で一緒に過ごすうれしさや相手のよさを感じながら、相手を思う気持ちが育まれるよう、私たち保育者は子どもたちに働き掛けていきたいと思えます。

— 今月の指導のめあて —

- <3歳児>
 - ・自分の身の回りのことに気持ちを向けて取り組もうとする。
 - ・自分の思いやしたいことを言葉で表し、伝わったうれしさを感じながらやりとりを楽しみ、相手の話を聞こうとする。
 - ・動物やお話の登場人物になって動いたり、楽器を鳴らしたりしながら、学級みんなの中で自分なりに表現することを楽しむ。
- <4歳児>
 - ・気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉にしたり、相手の思いを聞いたりする。
 - ・年長児との関わりを通して親しみを感じ、あこがれや感謝の気持ちをもつ。
 - ・学級全体でする活動を楽しむ中で、友達とのつながりを感じる。
- <5歳児>
 - ・自分のめあてをもってあきらめずに挑戦したり、イメージを実現しようと試行錯誤したりしながら、達成感や満足感を味わう。
 - ・友達と一緒に生活や遊びを進める中で、自分の思いだけでなく、相手のことも考えながら行動しようとする。
 - ・園生活を振り返り、自分の成長を感じる。